

## かかりつけ医を持ちましょう



医療機関にかかるとき、受診先を決めていますか?その都度受診先を変えると同じ検査や同じ薬を処方されることがあるため、かかりつけ医を持つことが大切です。かかりつけ医は1人に決める必要はありません。例えば内科の他に眼科や皮膚科にも通院している場合には、それぞれにかかりつけ医を持つことになります。自宅や職場から近く通いやすいところで、自分に合った医師を見つけましょう。

※薬局についても、処方せんで調剤を受ける時、市販薬を購入する時など、同じ薬局を利用すれば、薬の飲み合わせ(相互利用)や重複を専門家に確認してもらうことができます。

### かかりつけ医を持つメリット

メリット1

#### 的確な診断やアドバイスを受けることができる



同じ医師に継続してかかると、医師は患者の病歴や体質、生活習慣などを把握することができるため、ちょっとした体調の変化にも気づきやすく、病気の予防や早期発見・早期治療が可能になります。

また、患者は治療法などについての的確な診断やアドバイスを受けることができます。

メリット2

#### 余計な医療費を抑えることができる



- 同じ病気や症状で2カ所以上の医療機関を受診する「はしご受診」をする、医療機関を変えるたびに初診料や検査料がかかるため、医療費は割高になります。

	1回目	2回目	3回目	合計
はしご受診の場合	初診料 2,880円	初診料 2,880円	初診料 2,880円	8,640円 + 検査料3回分
かかりつけ医にかかった場合	初診料 2,880円	再診料 730円	再診料 730円	4,340円 + 検査料1回分

※自己負担は原則3割となります。

- 紹介状なしで大病院を受診すると健康保険がきかない特別料金が加算されるため、注意が必要です。

診療所 (一般病床20床未満)	特別料金がかからない
特定機能病院 地域医療支援病院 (一般病床200床以上)	特別料金が 初診時は7,000円以上加算 再診時は3,000円以上加算 <small>特別料金は自己負担となります</small>

日常的な病気やけが、気になる症状などがあれば、まずはかかりつけ医を受診しましょう。



なるほど!



## 20歳以上の女性は子宮頸がん検診を受けましょう

国内では、毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人が亡くなっています。子宮がんのうち約7割が子宮頸がんが占めており、20歳代から急増し、30歳代女性では主な死因の1つとなっています。しかし、早期がんのうちに発見して治療すれば、治療率も高くほぼ完治します。20歳以上の女性は、少なくとも2年に1回は子宮頸がん検診を受けましょう。



詳しくは  
WEBで▼

